

佳作

未来を支えるエネルギーへの挑戦

岩手県一関市立一関中学校

3年 千葉 泉

今年の夏、我が家にエアコンがやってきました。今まで扇風機でしのいできた日々があざ笑われるかのような快適さを、つくづく実感しています。

閑話休題、私には夢があります。今、世界中にさまざまな環境問題が存在しています。しかし、私たちが普段の生活でそれを意識することはまずありません。だからこそ、今期待されている再生可能エネルギーが人々の生活を支えるために、研究者になりたいと考えています。また、誰もが地球環境に貢献できる社会を実現したいと思っています。

私が小学生の頃、近所の空き地にたくさんの太陽光パネルが設置されました。規則正しく並んだそれは、眩しい朝日を受けて、キラキラ輝く海のように見えました。無限に発電できる太陽光発電を考案した人は天才だと感じていましたが、それと同時にある疑問も抱くようになりました。

一般に太陽光発電の発電効率は、約 20 パーセント程度といわれています。パネルが受け取った太陽光のうち、80 パーセントが熱や反射で失われてしまう、とても効率的とはいえない発電方法です。当時、特に深く考えていなかった私は、なぜ太陽光発電が主流ではないのかずっと不思議に思っていました。

再生可能エネルギーには、今なお多くの課題が残されています。私の夢は、その課題に取り組み、持続可能なエネルギー供給を可能にすることです。

それには、幼い頃から好奇心旺盛で、どんなささいなことにも疑問を持つ性格も影響しているのだと思います。「なぜ空は青いのか」「どうして水をあげないと花は枯れてしまうのか」「どうすれば地球から戦争をなくすことができるのか」——私は、たくさんのことに興味を持ちながら、毎日を新鮮な気持ちで生きています。そして、ふとした疑問を誰かに尋ねてみたり、インターネットで調べたりして、新たな知識を得る瞬間に私は最高の幸せを感じています。

私のこうした探求心は、昨年科学の世界に強く惹かれ、深く引き込まれるきっかけとなりました。

科学の世界は、探求すればするほどますます面白くなっていくものでした。知識の点と点がつながり、線となって形作られる快感は、他に代えがたいものです。そして、すべての事象が論理的に説明され、順を追っていけば必ず答えにたどり着けるというのも大きな魅力の一つです。

私にとって科学は魔法です。ロボットも発電も料理も、不思議に思ったこと

は科学だったからです。しかし魔法は魔法でも、原理を理解して条件が整ったなら、実際に発動することができます。何も無いところから水をつくり出したり、触れずに物を動かしたり、頑張れば爆発さえ引き起こすことができる。科学の世界に深く没頭するほど、やってみたいことが増えていきます。いつか大人になった時に、魔法使いを目指すのも面白い選択かもしれません。それでも、私はこの科学で人々の役に立つために、研究者への道を選びます。

新聞やテレビ、インターネットには、膨大な種類の情報が溢れています。そして、その中には再生可能エネルギーに関する情報もあり、現状や課題などが詳細に述べられていました。以前の私なら「よく分からないけれど、うまくいくといいな」と他力本願なことを思っていたかもしれません。しかし今は、自分の力で科学を応用し、再生可能エネルギーのさらなる普及を目指してみたいと考えています。きっとそれは簡単なことではないでしょう。だからこそ、大好きな科学を深めて完璧な理論を創りあげ、再生可能エネルギーの革新的な技術開発へ挑戦したいです。そして、地球環境のために、地球に住む人々のために、持続可能なエネルギーの研究に尽力したいです。

私たちが日常的に利用している石油資源は、あと約50年から70年で尽きてしまうそうです。私はそのことに強い懸念を抱いています。なぜなら、エアコンがない夏なんて生きていけないと感じるほど、日常の便利さを支えるエネルギーが失われるのは、恐ろしいことだからです。だから私は、未来を支えるエネルギーを開発し、社会全体に貢献することが重要だと考えています。そしてその恩恵が一人ひとりに、もちろん私自身にも巡り、すべての人々がより良い未来へ向かう力にしたいと思います。